



The Role of Social Capital in Community Collective Action in Cambodia: The Case Study of Mutual Help and Local Management of Commons

SOKTY CHHAIR

(Degree)

博士（経済学）

(Date of Degree)

2012-03-25

(Date of Publication)

2012-04-16

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲5589

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1005589>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



論文内容の要旨

博士学位論文

論文内容の要旨および審査結果の要旨

氏 名	SOKTY CHHAIR		
学 位 の 種 類	博 士（経済学）		
学位授与の条件	神戸大学学位規程第5条第1項該当		
学位論文の題目	The Role of Social Capital in Community Collective Action in Cambodia: The Case Study of Mutual Help and Local Management of Commons (カンボジアの集団行動におけるソーシャルキャピタルの役割：コミュニティベースの相互扶助と共有財産の管理を事例とした実証分析)		
審 査 委 員	主査	教 授	駿 河 輝 和 教 授 山 崎 幸 治 教 授 三 重 野 文 晴

本論文は、カンボジアコミュニティにおける集団行動が少ないのはなぜかという疑問を動機として、特に社会関係資本に重点を置いてコミュニティ集団行動の決定要因分析を行った。論文において、社会関係資本を、「ほとんどの村人は他の村人を信頼しているか」「ほとんどの村人は他の村人を助けるか」「ほとんどの村人は他の村人に対して公平であるか」という質問に対する答えによる得点として定義している。カンボジアにおいてコミュニティ集団行動が少ないことは、社会関係資本が欠けているためなのかどうかを幾つかの集団行動を分析することにより調べている。

この論文では、2つのタイプの集団行動を研究の対象にしている。第一は、外部の組織や国際開発機関の干渉なしに形成されるコミュニティ・メンバーの相互助け合い行動である。この集団行動として、サンハとよばれる重病になったときに村人がお金を供出してこの家庭を助けるという南カンボジアに広がりつつある制度と葬式における香典を使用している。もう1つの集団行動として、地域の管理する共有財産である森林を扱っている。この場合には、国や国際開発機関が管理に関与してくる。こういった集団行動に対して社会関係資本がどのような役割を果たしているのか、外部機関のサポートは役に立っているのかを調べようとしている。

論文の構成は次のようになっている。第1章ではカンボジアにおける集団行動と社会関係資本についてその背景が説明されている。第2章はサンハと葬式における拠出金額の決定要因の分析である。第3章はコミュニティが管理する森林保全活動への参加の決定要因を分析している。第4章はコミュニティが管理する森林保全の成功水準の決定要因分析である。第5章は結論と政策提案となっている。

第2章は、緊急性の高い助け合いであるサンハと緊急性の低い葬式における拠出金額の決定要因を調べている。助け合いに参加するかどうかでなく実際の拠出金額の決定要因分析となっている点に新しさがある。使用したデータは、サンハについては約400の拠出金のケース、葬式については約300の拠出金のケースを収集したものである。決定要因として、社会関係資本、リスクに対する態度、資産の代理変数としての住居の質、拠出者と受領者の相対的所得水準の認識を考えている。社会関係資本の指標は上述の開き取り方法で作成し、またリスクに対する態度の変数は実験を行ってデータを集めている。分析は親戚と親戚でない場合に分けて行い、両者の行動パターンの違いを見つけた。親戚でない場合、拠出者の社会関係資本とリスクに対する態度は非常に重要で、サンハ（緊急性が高い）にも葬式（緊急性が低い）にもプラスの影響を与えていた。しかし、親戚の場合、社会関係資本はサンハでは影響がなく、葬式ではプラスの影響があった。またリスクに対する態度はどちらにも影響を与えていなかった。親戚は、緊急性の高い場合には、社会関係資本や

審査結果の要旨

リスクの態度に関係なく支援し、社会関係資本は親類との代替的な役割を果たしている。

第3章は、森林保全のための活動への参加の決定要因を調べている。使用しているデータは、2007年と2011年の2回にわたって調査した、合計59村、590家計から集めたものである。「会合に参加していますか」「コミュニティ森林保全委員会に寄付していますか」「木を植えていますか」「火事予防の道路をつくっていますか」「パトロールに行きますか」という質問への答えから森林保全活動参加度を測っている。また、社会関係資本を代替する指標として、コミュニティ森林保全組織に創設時から参加しているかどうか、創設後何年で参加しているかといった指標を作成して、前出の社会関係資本の指標の結果と比較している。その他の決定要因として、たき木を集める場所への距離、自分の庭の広さ、ローンを誰から借りているか、家長の教育水準を考えている。3つのどの指標を使用しても社会関係資本は有意に参加を高めており、この論文で主に使用している社会関係資本の指標の作成方法が適切であることを示していた。近くもなく遠くもない適切なたき木を集める場所への距離がコミュニティの森林への依存を高める、作物の相互交換のためには一定以上の庭の規模が必要でそのことが参加を高めるといった仮説を支持していた。

第4章は、森林の管理が成功しているかどうかの決定要因分析である。データは66のコミュニティの管理する森林から集めた。要因として、森林保全活動への参加、開発組織の職員の支援（訪問回数で測る）、森林への距離、不平等度、村長の教育水準、最初に存在した問題の水準、人口成長率、1世帯当りコミュニティ森林の面積などを考えている。

森林の管理の成功水準に関して、外部組織の職員が森林の成長率について1から4までの評価をした指標と、コミュニティ森林管理委員会のパフォーマンスを80項目について外部組織の職員が評価したものという2つの指標を使用している。森林保全活動への参加の水準についても、第3章で使用した村ごとに集めたデータの集計と外部組織の職員が評価したものと2つを使って結果を比較している。職員の訪問回数と森林パフォーマンスは相関関係を持っている。森林の状況が悪いほうが職員の訪問回数は多くなると考えられるからである。この内生性を考慮して推定を行うと考慮しない場合に比べて、職員の訪問回数はより大きく森林のパフォーマンスに影響を与えていた。また、森林保全への参加の水準は有意に森林のパフォーマンスにポジティブな影響を与えている。すなわち、分析結果は、社会関係資本から生み出される森林保全活動への参加と同時に外部組織からの支援があると森林保全のような集団管理は成功しやすくなることを示していた。

全体の分析から、カンボジアにおいて集団行動には社会関係資本が十分に貢献していて、社会関係資本が少ないために集団行動が少ないとは言えないという結論を導いている。村民の集団行動に関する能力の開発や外部組織からの支援があればカンボジアでも有益な集団行動の広がっていく余地が充分ある。

この論文は、カンボジアにおいていくつかの集団行動における社会関係資本の役割を実証的に分析している。カンボジアのコミュニティにおいては集団行動が欠けているということが言われているが、これは社会関係資本が少ないためか、コミュニティのキャパシティの欠如など別の要因のためであるのかという問題を確かめようとしたものである。扱っている集団行動は、サンハと呼ばれる重病になった時に村人がお金を供出する制度、葬式におけるお金の拠出、森林の保全行動である。カンボジアにおける社会関係資本と集団行動に関する研究はあまりなく、すべての分析において自分でデータを集めた意欲的な研究であり、極めて貴重な分析となっている。本研究の貢献は次のような点にある。

- 1、社会関係資本の変数を信頼、扶助、公平に関する質問から作成して分析に使用している。またリスクに関するデータも実際に実験を行って作成した。この2つの変数を利用して、サンハと葬式における拠出金の金額の決定要因について分析しているが、単に拠出金に参加しているかどうかでなく金額のデータを集めて分析している点は貴重である。分析の結果、社会関係資本、リスクともに拠出金の決定に有意に影響をしていた。また、親戚と非親戚とでは、社会関係資本とリスクの影響力が異なり、緊急時には親戚の場合、社会関係資本の影響はなくなる。すなわち、緊急時には、社会関係資本は親類の代替変数として効いてくるところを見つけている。
- 2、森林保全活動への参加の水準を会合への参加、寄付、植林、道路建設、パトロールといった質問から作成している。また、社会関係資本の影響を、上述した社会関係資本の作成だけでなく、森林保全組織の創設から参加しているか、創設後何年で参加しているかといった代替的な社会関係資本の指標を作成して森林活動への参加への影響を見て、どの指標を使用しても参加を高めていることを確かめている点も独自性を持っている。また、たき木を集めるための距離や庭の広さと森林保全への参加に関しても仮説をつくって確かめている点も興味深い。
- 3、森林の管理状況を、外部組織からの職員の森林成長の評価と森林管理に関する80項目の質問への答えの2つの評価を使用している点が特徴的である。また、単に森林保全活動への参加だけでなく外部職員の支援（訪問）が極めて重要であることを、訪問と森林の状況の内生性を考慮して示したことは非常に重要である。
- 4、カンボジアにおいて、社会関係資本が十分にあり、集団行動に有意に影響していることを示した。カンボジアにおいて集団行動が欠けているのは、社会関係資本の欠如のためではないという指摘をしたことも価値のある点である。

全体として、完成度の高い論文となっているが、しいて問題点を挙げるならば次のような点であろう。

- 1、カンボジアにおいて社会関係資本が十分にあることを示しているが、他の近隣

諸国との比較をしているわけではない。したがって、近隣諸国と社会関係資本の影響について比較分析をすれば、よりカンボジアの特徴が明確になるであろう。

- 2、 森林保全に関して、森林管理活動と外部開発組織職員の支援の両方が重要であることを指摘したことは価値があるが、聞き取り調査などにより、コミュニティ活動と外部職員の役割と相互関連についてより詳細なことがわかるとより面白いと思われる。今後発展させるべき課題もいくつかあるが、カンボジアにおいて、サンハ、葬式、森林保全に関して社会関係資本が大きな役割を果たしており、また森林保全に対しては外部からの支援も重要であることを示したことは、今後、集団行動がより必要になっていくことが予想され、研究の意義は大きい。本論文は、高い水準を持っており、独立して研究者としてやっていけることを十分に示しており、博士（経済学）に値すると判断した。

平成 24 年 1 月 17 日

主査 駿河 輝和

副査 山崎 幸治

副査 三重野 文晴